

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0970201034		
法人名	有限会社邦史会		
事業所名	グループホーム青の蓮		
所在地	栃木県足利市福居町843番地 (電話) 0284-72-0584		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年10月23日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	9 10 人 9	常勤6人(うち兼務3人), 非常勤3人, 常勤換算4.7人 常勤7人(うち兼務2人), 非常勤3人, 常勤換算5.7人 常勤7人(うち兼務3人), 非常勤2人, 常勤換算5.3人	

(2) 建物概要

建物構造	RC造り 5階建ての1~3階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代=実費、おむつ代=実費、管理費=実費、レクリエーション=実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(252,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	252 円	昼食	420 円
	夕食	294 円	おやつ	84 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年8月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	●医療法人社団邦史会 うるしばら内科・皮膚科クリニック ●足利赤十字病院 ●医療法人杏林会 今井病院 ●医療法人恵愛会 青木病院 ●医療法人根岸会 足利富士見台病院 ●うるしばら歯科医院 ●医療法人 長崎病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

春には桜の咲き誇る恵まれた公園、神社が近くにあり、街中に比較的近い場所にある、欧風のモダンな建物の1~3階が当ホームである。当ホームの法人代表者は、医療法人の理事長でもあり、市医師会の理事もしていることから協力医療機関の数も多く、医師同士の連絡でスムーズな受診ができるなど医療の連携体制が充実している。医療連携体制加算の指定も受けており、訪問時には点滴をされている方もいた。今までにホームで最期を迎えられた方もおり、ホームの方針として、持病等があっても重度化してもできるだけホームでの生活を支えたいと考えている。職員の明るさ、親しみやすさが印象的である。運営推進会議では地域の方にも多数参加していただいております、近所に建設予定の自治会館兼社務所の駐車場利用を申し出ていただけたりと、地域との連携が深まってきている様子がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	トイレ入口に視線止めのカーテンを取り付けたり、玄関の内扉の自動ドアを手動で開けるようにしたりとできることから改善を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員で取り組み、管理者が記入した。今回の外部評価については、今後運営推進会議でも報告する予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、近所の神社の総代、民生委員、婦人会の会長など多くの地域の方、市職員に参加してもらっている。入居者と家族はフロアごとに交代で参加してもらっている。ホームの活動などを報告するとともに、ホームの課題についても話し合っている。ホーム北側の桜の木を痛めないように駐車場の角を削るなど具体的な調整などもしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	頻繁にホームを訪れる家族が多いとのことで、訪問時にも複数の家族が見えていた。預かり金は出納帳で管理、訪問時に確認していただいている。毎月、たよりを発行している。苦情等の受付について、重要事項説明書にホームの窓口、市、国保連、運営適正化委員会の連絡先を明記し、玄関にポスターを掲示している。意見箱も設置しているが、あまり活用されることはない。管理者はローテーションに入らずに、家族からの話などに対応できるような体制になっており、様々な意見等を聞いている様子がうかがえた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立派な趣である建物の外観が「敷居が高い」というイメージにもなっているとの声もあるとのことだが、運営推進会議に地域の方に多く参画していただいたり、地域の小学校と幼稚園と交流があったり、中学生の体験授業を受け入れたり、地域のお祭りや文化祭に参加している。自治会に入会しており、開設当初は葬儀の手伝いなどもしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人・義・礼・知・信」をホームの理念としており、例えば「人」は「人を敬う」ということを示し、入居者と関わる職員のあるべき姿、行動指針ともなっている。その他に地域との関係性も謳っている企業理念があり、事務室、共有スペースに掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を音読し、また各フロア（ユニット）ごとに行う毎月の定例会議で理念に基づいた支援について話し合っている。職員の話からは特に「人」を敬う、「信」愛するということを大切にしている様子がうかがえた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立派な趣である建物の外観が「敷居が高い」というイメージにもなっているとの声もあるとのことだが、運営推進会議に地域の方に多く参画していただいたり、地域の小学校と幼稚園と交流があったり、中学生の体験授業を受け入れたり、地域のお祭りや文化祭に参加している。自治会に入会しており、開設当初は葬儀の手伝いなどもしている。	○	運営推進会議に地域の方に参加していただき、また建物の隣に桜の季節には花が咲き誇る公園や神社などがある場所の特性も活かしながら、ホームならではの地域とのつながりを深めていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	トイレ入口に視線止めのカーテンを取り付けたり、玄関の内扉の自動ドアを手動で開けるようにしたりとできるところから改善を図っている。今回の自己評価は全職員で取り組み、管理者が記入した。今回の外部評価については、今後運営推進会議でも報告する予定である。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、近所の神社の総代、民生委員、婦人会の会長など多くの地域の方、市職員に参加してもらっている。入居者と家族はフロアごとに交代で参加してもらっている。ホームの活動などを報告するとともに、ホームの課題についても話し合っている。ホーム北側の桜の木を痛めないように駐車場の角を削るなど具体的な調整などもしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の参加のほか、市役所に行ったときに担当がいれば話をする機会を作ったりしている。ホームとしては、市との連携をより深めたいと考えている。	○	ホームでの現状や課題などを率直に伝えながら、市も一緒にサービスの質の向上に取り組んでいけるように働きかけを継続していくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻繁にホームを訪れる家族が多いとのことで、訪問時にも複数の家族が見えていた。預かり金は出納帳で管理、訪問時に確認していただいている。毎月、たよりを発行している。	○	なかなか訪問できない家族のために、たよりの内容を充実することも考えている。写真を取り入れたり、職員の異動時に紹介を設けたりと内容を充実していくことに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の受付について、重要事項説明書にホームの窓口、市、国保連、運営適正化委員会の連絡先を明記し、玄関にポスターを掲示している。意見箱も設置しているが、あまり活用されることはない。管理者はローテーションに入らずに、家族からの話などに対応できるような体制になっており、様々な意見等を聞いている様子がうかがえた。	○	運営推進会議では、家族の話から家族会をつくることを今後検討していくこととしている。家族同士が話し合える場としても家族会の検討をしていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームと同じ建物内に有料老人ホーム、デイサービスセンターがあるが、グループホーム以外の事業所への異動はしないことを方針としている。フロア間の異動や普段から職員が行き来することで事業所全体として顔なじみの関係をつくり、離職等があったときにもダメージが少ないように配慮している。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症やターミナルケアなど、その時のホームの時宜にあった勉強会を年3～4回実施している。外部研修について、運営者は参加できるものは積極的に参加させるよう考えており、認知症介護実践研修などにも交代で参加している。研修終了後はレポートをまとめたり、フロアで報告したりしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。管理者が以前、居宅介護支援事業所でケアマネジャーをしていたり、同法人の事業所のケアマネジャーが地区のケアマネジャー協会の事務局を担っていることもあって、他ホームとのつきあいがある。職員とともに他施設見学に出掛けることもある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や関係機関等から紹介があったときには管理者が訪問したり、ホームに来ていただいたりしている。方針として持病等があっても車いすなどを使用してもできるだけ入居の要望に応えるようにしている。入居後は、これからここで生活することを本人と話し合ったり、入居者に紹介してまわったりしながら徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	特浴を利用する方がいたり、介助の度合いが高くなっている様子もうかがえるが、インゲン豆のスジ取りや茶碗拭き、ゴミだしなど入居者のできることに配慮しながら職員と入居者が一緒に行ったりしている。	○	当ホームの方針からすると、今後介助の度合いの高い方が増えていくことも考えられるが、入居者の力や経験を活かして一緒に生活をつくっていく支援を続けていくことに期待したい。

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントのほか、日々の生活の中で職員の気づきも活かしながら希望や意向の把握に努めている。実際の介護計画書にも本人の暮らし方の希望が具体的に取り上げられていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスの時間を設け、数人について職員の気づきも踏まえて検討している。家族の訪問も多く、家族の要望や意見なども聞いている。必要に応じて医療関係者からの情報なども取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを半年に1回行い、介護計画の見直しを年に1回行っている。毎月1回カンファレンスを実施しており、状態の変化などがあつたときには随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。訪問時にも看護師が巡回しており、自室で点滴をしている方もいた。ホームと同じ建物内にデイサービスセンターが併設されており、レクリエーション等での交流やデイサービスセンターで使用していない時間帯に風呂を借りたりと連携もとられている。		

グループホーム青の蓮


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の代表者は医療法人の理事長（医師）でもあり、月に2回は往診が受けられるようになっていいる。かかりつけ医での受診の際には家族との連携のもと適切な医療が受けられるよう支援している。代表者は市医師会の理事であることもあって、協力医療機関が多く、その連携もスムーズである。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに看取りをしたことがあり、また医療的依存度が高くともできる限りホームでの生活を支える方針である。職員間での話し合いももたれている。「看取り介護に対する指針」を重要事項説明書の中に入れており、説明・交付し、同意を頂いている。訪問時にも点滴をしている方がいたり、看護師が巡回している様子を見ることができた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	書類は各階の事務室に保管している。入居者に対しては、「姓」か「さん付け」で呼ぶことを基本としており、本人の希望がある場合は家族に了解をとったうえで対応している。職員は明るく、笑顔で入居者や家族に接している様子が見えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞や広告を見たり、テレビを見たりと思いに過ごしている様子が見えた。家族が訪問して一緒に過ごしたり、一緒に外出してきたりという場面が見られた。食事、散歩なども画一的に時間を決めず一人ひとりのペースで生活できるよう心がけているが、ホームとしては、より職員が本人の希望に合わせた支援を追求したいと考えている。	○	重度化等での職員への負担増も考えられるが、家族や地域の方々から色々な意見をいただける運営推進会議の場も活かしたりしながら、ホームの考える「日々のその人らしい暮らし」の追求を続けていくことに期待したい。

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできることを考慮しながら、食事の準備や後片付けを職員と一緒にいるなどしている。職員は必要に応じて介助や声かけなどをしながら、入居者と一緒に同じ物を食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者には毎日入浴するかどうかを聞きながら入浴を支援している。入浴は30分を目安にしており、仲の良い方どうしで入ることもある。介助の必要な方は1日おきに入浴を支援している。最低でも週2回以上は入浴できるようにしており、足浴などの支援もしている。	○	入浴の時間帯は午前・午後に関わらず対応しているが、管理者は就寝前の入浴支援も含めて更なる充実を考えているので、その実現に期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の皮むきやスジ取り、おしぼり配り、洗濯物たたみ、ゴミ捨てなど入居者のできることに応じて職員と一緒にいる。短歌や菜園などを楽しむ方もいる。デイサービスセンターでのレクリエーションにも参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節・天気の良いときには隣の公園に出掛けたり、週に2回程度職員1人に入居者1人で食材の買い物に出掛けている。職員と通院して、そのついでに外食をしてみたり、自宅に風を入れに出掛けたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物自体の玄関はデイサービスセンター、有料老人ホームと一緒にあり自動ドアは開放状態になっている。ホームの各フロアの入口の自動ドアは暗証番号での管理になっており自由な出入りは難しい。家族には説明している。日中の時間帯は手動で開閉できるようにしたり、出入りの希望があった時にはその都度対応している。	○	構造上の制約や3階建てという意味での危険性も配慮する必要があると考えられるが、当ホームならではの入居者の自由な生活を支える方法などを追求していくことに期待したい。

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施しており、運営推進会議でも夜間想定訓練の相談などを行っている。消防署への通報システムが設置されており、事務室に緊急時の対応表が掲示してある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は日誌に記録し、一覧できるように工夫されている。毎月体重測定をし、年に1回は健康診断を受けられるよう支援している。医師や看護師のアドバイスを受けられる体制になっている。	○	献立はそれぞれのフロアで冷蔵庫の中を見て決めている。献立には「野菜」、「その他食材」などの欄を設けて栄養バランスにも気を付けているが、時折、栄養の専門家などにアドバイスを求めるなどして、より充実した食の支援をしていくことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には花を飾ったり、新聞を置いたり、入居者の作品を飾ったりと生活感や季節感を取り入れた空間づくりがされている。物の置き方や掲示に注意を要するフロアもあり、それぞれに違った表情になっている。西日が気になるときはカーテンなどで調節している。入居者の安全を考慮して、家族に了解を得て、共用部分にベッドを出しているフロアもある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に持ち込みは自由にしており、家具や仏壇を持ち込んでいる方もいる。洋室の設定だが畳の生活が良いという方は畳を持ち込んでいる方もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。